

『鳳城聯句集』訓注稿 (二)

楊 昆 鵬

本稿は版本『鳳城聯句集』所収聯句作品について、試みに読み下しを施し注釈を付けたものである。前稿、『京都大学国文学論叢』第三四号、平成二七年九月)の続きとして、全三十作のうち、第三から第六までの四点をここに掲載する。

【作者】(初出人名のみ)

(第三)

寿洪 寿洪玄英、僧侶(臨濟)。生没年未詳、天龍寺真乘院。

剛外 剛外令柔、僧侶(臨濟)。永祿六年(一五八三)生、寛

永四年(一二二七)没。慶長十五年東福寺二三〇世。

越溪 越溪礼格、僧侶(臨濟)。生没年未詳。はじめは義格。

東福寺第二三三世。南昌院、曹源院。

利峰 利峰東銳、僧侶(臨濟)。生年未詳、寛永二十年(一六

四三)没。京都建仁寺二九七世。

靈圭 雲岳靈圭、僧侶(臨濟)。生没年未詳。玄圃靈三の弟子、

南禅寺天授庵主。

為適 五条為適、公家。慶長二年(一五九七)生、慶安五年(一

六五二)没。本姓菅原、五条為経の男。慶長十六年に文章得業生、同十九年に文章博士。

(第四)

以心 以心崇伝、僧侶(臨濟)。永祿十二年(一五六九)生、

寛永十年(一六三三)没。南禅寺二七〇世、金地院住職。

(第五)

宮 八条宮智仁親王。天正七年(一五七九)生、寛永六年(一

六二九)没。後陽成院の弟、院の和漢聯句会また聯句会

に多く参加。細川幽斎から古今伝授を受け、後水尾天皇

に相伝した。

言緒 山科言緒、公家。天正五年(一五七七)生、元和六年(一

六二〇)没。慶長十八年従四位上、右中将。

元良 最岳元良、禅僧(臨濟)。生年未詳、明暦三年(一六五

七)没。以心崇伝の法嗣、元和九年南禅寺二七四世。

【凡例】

・五言の句冒頭に通し番号を付した。

・漢字の字体は原則として現在通行のものに統一した。

・訓点は底本のままにし、読み下しは原則として訓点に従うが、一部句意に基づき変更したものもある。なお、読み下しに適宜濁点を施した。

・明らかな誤字もそのまま翻刻し、期待される本文を右傍に(某カ)のように注記した。

・注は最小に止め、難読箇所や一部の熟語について典拠と用例を示す。

江第三 慶長十九年八月十三日

1 如^レ昼^ノ中秋^ノ月 昼の如き中秋の月

2 一^ノ輪^ヲ照^ス二万^ノ邦^ノ 一輪 万邦を照らす

3 斯^ノ史^ノ三^ノ舍^ノ日 斯史^{（一）} 三舍の日

4 残^ノ編^ヲ磨^ク西^ノ窓^ニ 残編 西窓に磨く^{（二）}

5 履^ム実^ヲ詩^ノ礼^ノ履 実を履む 詩礼の履

6 釘^ス心^ヲ聯^ス統^ス釘 心を釘す^{（三）} 聯統の釘

7 樵^ノ風^ハ能^ク活^ク計 樵風は能の活計

8 祖^ノ室^ハ潜^ク言^ク厖 祖室は潜の言厖

9 後^ニ素^ヲ鷗^ノ前^ニ立 素を後にして鷗前に立つ

10 上^{ツリ}珠^ヲ龍^ノ下^ニ降 珠を上りて龍下り降る 越溪

(1) 『淮南子・覽冥訓』「魯陽公与韓構難、戰酣日暮、援戈而擣之、日為之反三舍」。

(2) 禅院の灯明。唐・安守范「片時松影下、聯統百千灯」（天台禅院聯句）。

(3) 樵風は後漢の鄭弘が薪を採ったところ、仙人の落ちた矢を拾い、お札に薪を運ぶために順風を吹かせてもらった故事（会稽記）。能は惠能禅师か。

(4) 『聚分韻略』「厖、厚也」。言が忠厚であること。『莊子・人間世』「若殆以不信厚言、必死於暴人之前」。押韻字のため「厖」を使ったか。

(5) 『論語・八佾』「絵事後素」。

11 雲興^{（ナラント）}山欲^レ雨 雲興りて山雨ならんと欲す 雲

12 潦^{（一）}激^{（二）}陸^{（三）}成^{（四）}江 潦激して陸江と成る 利峰

13 船^{（五）}步^{（六）}躡^{（七）}波^{（八）}早^{（九）} 船歩 波を躡みて早し 重

14 筆^{（一〇）}威^{（一一）}輕^{（一二）}鼎^{（一三）}扛^{（一四）} 筆威 鼎を輕かにして扛ぐ 靈圭

15 酒^{（一五）}雖^{（一六）}烏^{（一七）}獲^{（一八）}力^{（一九）} 酒は烏獲が力と雖も 為適

16 斗^{（二〇）}有^{（二一）}范^{（二二）}增^{（二三）}撞^{（二四）} 斗は范増が撞く有り 岳

17 数^ト目^ス 顧^ル人^ス 柳^ス 数^トしば目^ス 人^スを顧^ルみる柳^ス 竹

18 稍^ト親^ム投^ル老^ヲ 笠^ヲ 稍^ト親^ムしむ 老^ヲを投^ルずる^ハ 笠^ヲ 洪

19 憂^ス将^ハ婦^ヲ操^ル 雁^ヲ 将^ハ婦^ヲ操^ルを憂^ハすは雁^ヲ 澗

20 負^フ不^レ揆^フ才^ヲ 駢^ヲ 不^レ揆^フの才^ヲを負^フは駢^ヲ 外

(6) 雨水が溢れること。英甫永雄「却疑夏潦激銀漢、波底兔輪随急流」(夏月易明)。

(7) 船歩は船埠。陸遊「車轍尋旧途、船歩出新岸」(久雨喜晴十韻)。

(8) 黄庭堅「虎兒筆力能扛鼎、教字玄暉繼阿章」(戲贈米元章二首、其二)。

(9) 戦国時代秦の力士。『文選・西京賦』「烏獲扛鼎、都盧尋橦」。

(10) 『史記・項羽本紀』「亜父受玉斗、置之地、拔劍撞而破之」。

(11) 琴の音曲。蔡邕『琴操』「将婦操者孔子之所作」。

(12) 「不揆」は量らないこと。杜甫詩題「行次古城店泛江作不揆鄙拙奉呈江陵幕府諸公」。「駢」は顔と額が白の黒い馬、こゝで押韻する。

21 白^ハ似^レ雪^モ 便^ニ面^ニ 雪^ニに似るも白きは便面 御

22 緑^ナ如^レ霧^モ 乱^ハ震^ハ 霧^ノの如くも緑なるは乱震 節

23 新^ニ粧^ム 荒^ム色^ニ 鏡^ニ 新^ニ粧^ム 色^ニに荒^ムむ鏡^ニ 溪

24 熟^ニ醉^ム 駐^ム顔^ヲ 釭^ヲ 熟^ニ醉^ム 顔^ヲばせを駐^ムむる^ハ 釭^ヲ 雲

25 柏^ハ尚^ニ友^ヲ 千^ニ載^ニ 柏^ハは千載に尚友たり 峰

26 竿^ハ漁^ニ釣^ス 九^ニ瀧^ニ 竿^ハは九瀧に漁釣す 重

27 擺^ツ瀾^ヲ 魚^ヲ 鰈^ヲ 刺^ス 瀾^ヲを擺^ツつて魚^ヲ鰈^ヲ刺^ス 圭

28 開^ハ戸^ヲ 鶴^ヲ 空^ニ 窓^ニ 戸^ヲを開けば鶴空窓 御

29 峰^ハ自^ニ晴^ニ湘^ニ 競^ニ 峰^ハは晴湘より競ふ 岳

30 水^ハ於^ニ清^ニ渭^ニ 淙^ニ 水^ハは清渭に淙たり 洪

(13) 「釭(ともしび)」は第6句に既出、底本の誤りか。こゝは句意から「釭」すなわち「缸」とすべきか。『聚分韻略』「缸 カメ、サカツキ、モタイ」。

(14) 蘇軾「舟行十里磨九瀧、篙声桡確相春撞」(江西一首)。

(15) 魚が勢いよく跳ねる様子か。「鰈」は魚の踊ること。

(16) 白居易「静読古人書、閑釣清渭浜」(詠拙)。韓愈「従此識婦処、東流水淙淙」(病中贈張十八)。

31 萍^ハ浮^テ 無^ニ定^ニ 質^ニ 萍^ハ浮きて定質無し 外

32 茗^一擲奈^二愚^三慙^一

茗^一擲^二て愚^三慙^一をいかんせん

竹

42 枕頭^一閨^二別逢^一

枕頭^一 閨^二は別逢^一

節

33 偽^一学^二来^三吾^一業

偽^一りて学^二び来^三るは吾^一が業

溪

43 艷^一詞^二招^三獄^一兆

艷^一詞^二 獄^三を招^一く兆

澗

34 飽^一休^二即^三彼^一脰^二

飽^一きて休^二んずるは即^三ち彼^一の脰^二

澗

44 殺^一氣^二入^三秋^一鏃^二

殺^一氣^二 秋^三に入りて鏃^一たり

竹

35 寒^一吟^二毫^三舌^一凍^二

寒^一吟^二 毫^三舌^一凍^二る

節

45 若^一遁^二富^三蔬^一蜀^二

若^一し遁^二らば蔬^三に富^一む蜀^二

外

36 曉^一夢^二杵^三聲^一攢^二

曉^一夢^二 杵^三聲^一攢^二く

御

46 宜^一居^二座^三茗^一蒙^二

居^一に宜^二し 茗^三を座^一する蒙^二

雲

37 虫^一豈^二哀^三而^一慟^二

虫^一はあに哀^二んで慟^三せんや

雲

47 嚙^一眠^二閑^三味^一足^二

眠^一を嚙^二みて閑^三味^一足^二る

溪

38 鶯^一其^二曲^三耳^一腔^二

鶯^一は其^二の曲^三のみ腔^一す

峰

48 迎^一故^二笑^三談^一嘒^二

故^一を迎^二へて笑^三談^一 嘒^二

洪

39 拾^一紅^二春^三在^一手^二

紅^一を拾^二ひて春^三手^一に在^二り

御

49 火^一德^二繼^三農^一鵲^二

火^一德^二 農^三に繼^一ぐ鵲^二

御

40 綰^一碧^二峰^三如^一髩^二

碧^一を綰^二びて峰^三髩^一の如^二し

雲

50 宿^一冤^二化^三祐^一慙^二

宿^一冤^二 祐^三と化^一する慙^二

竹

(17) 決^一ま^二つた姿^一。白居易「流^一注^二随^三地^一勢^二、注^一功^二無^三定^一質^二」(湖亭望^一晚^二残^三水^一)。

(18) 「茗^一」は茗^二帚^三の略^一か。魏^一文^二帝^三「典^一論^二・論^三文^一」「家^一有^二弊^三帚^一、

(19) 膨^一れ腫^二れること。

41 簾^一看^二乾^三舒^一卷^二

簾^一の看^二 乾^三は舒^一卷^二

竹

(22) 蘇^一軾^二「豈^一如^二吾^三蜀^一富^二冬^三蔬^一、霜^一葉^二露^三牙^一寒^二更^三茁^一」(春^一菜^二)。

(23) 蘇^一轍^二「南^一来^二応^三帶^一蜀^二岡^三泉^一、西^一信^二近^三得^一蒙^二山^三茗^一」(次^一韻^二子^三瞻^一道^二中^三見^一寄^二)。

(24) 『聚文韻略』「噫 語雜也、カマビスシ。『管子・小匡』

「士農工商四民者、国之石民也、不可使雜処、雜処則其言噫、其事乱」。

(25) 禰衡「休金精之妙兮、含火德之明輝」(文選・鸚鵡賦)。

51 護門封跡草 護門 跡を封ずる草

52 跳竈説禪椿 跳竈 禪を説く椿

53 破戒民衣罪 破戒 衣を民にする罪

54 緑沽長菓噶 緑沽 菓に長たる噶

55 愛恩携幼亮 愛して思しんず幼を携ふる亮

56 戦勝得兵龐 戦は勝つ兵を得たる龐

57 呉靄埋秦樹 呉靄 秦樹を埋む

58 濯潭弔楚汙 濯潭 楚汙を弔す

59 愁城令意策 愁城 意をして策かしむ

60 佳処有誰忘 佳処 誰有りてか忘せん

(26) 王筠「霜被守宮槐、風驚護門草」(芸文類聚・寓直中庶

坊贈簫洗馬詩)。

(27) 酒の意、白居易「春尽緑醅老、雨多紅蓼稀」(答韋八)。

『聚分韻略』「噶、喫也」。

(28) 諸葛亮。劉備の遺児劉禪を補佐したこと。

(29) 龐統。諸葛亮とともに劉備の軍師を務めた。

(30) 苙は香草、ここは汨羅江に投身した屈原を指す。

(31) 愁い苦しむ境地。月舟「平生胸次築愁城、相遇今如初月晴」(翰林五鳳集・次潤仲丈試穎韻)。

61 境杳煩延佇 境杳かにして延佇を煩はす

62 隠深思適從 隠深くして適ひて従はんことを思ふ

63 瓦盆徒種石 瓦盆 徒に石を種う

64 宝鑑每梳霜 宝鑑 毎に霜を梳けづる

65 鉄做断腸笛 鉄做 断腸の笛

66 金剛離垢幢 金剛は離垢幢

67 花飛眸悉翳 花飛びて眸悉く翳す

68 苔茂踵無迹 苔茂にして踵無し

69 翻露不牢玉 露を翻す不牢の玉

70 凌^ラ宵^ヲ七^ノ仞^ノ杙^ヲ 宵を凌ぐ七仞の杙

竹

(32) 隱遁をいう。沈約「何時当来還、延佇青岩側」(赤松澗)。

(33) 迹は獸の足跡。黃庭堅「鳥道免迹謀挽致、万牛不動五丁愁」(次韻李之純少監惠硯)。

71 免^ル行^ハ遊^ノ戲^ヲ列 行を免るる遊戲の列

御

72 死^ス諫^ニ廷^ノ争^ヲ逢^フ 諫に死する廷争の逢

洪

73 衰^ル鬢^ハ飾^ハ非^ハ帽^ヲ 衰鬢 非を飾るは帽

竹

74 倒^ル屣^ハ盜^ム法^ヲ床 倒屣 法を盗む床

峰

75 跼^ル天^ニ疎^ニ矮^ニ叔 天に跼まる疎の矮叔

澗

76 傾^ク国^ヲ越^ス高^ニ髻^ヲ 国を傾くる越の高髻

洪

77 榴^ヒ綻^ス動^ス星^ノ象^ヲ 榴綻びて星象を動かす

外

78 顙^ハ奔^ツ吐^ク霽^ニ虹^ヲ 顙奔りて霽虹を吐く

御

79 鳩^ハ喧^ス猩^ノ落^ニ 鳩喧にして猩二に落つ

雲

80 鴨^ハ漲^ス鯉^ニ成^ス双^ヲ 鴨漲りて鯉双と成す 節

(34) 過失を覆い隠す。『荀子・成相』「拒諫飾非、愚而上同、国必禍」。

(35) 『詩経・小雅』「謂天蓋高、不敢不跼、謂地蓋厚、不敢不踣」。『虚堂和尚語録』「疎山矮師叔、探道之心甚切」(巻四)。

(36) 「髻」は乱れ髪。「髻」は女性の高く結う髪をいうが、ここは押韻するために「髻」を使うか。

(37) 花の鮮やかさを星に喩えるか。白居易「曄曄復煌煌、花中無比方」(山石榴花十二韻)。

(38) 「顙」は毛顙、筆の先端。黃庭堅「男兒生世間、筆端吐白虹」(次韻楊叔明見餞十首、其二)。

(39) 「鳩」はほととぎす。「猩」は「猩紅」、花の色をいう。方干「瑟瑟林排全巷竹、猩猩血染半園花」(孔氏林亭)。

「落二」は地に落ちる。東第一3句目に既出。

81 邀^テ雲^ヲ蓮^ハ張^レ蓋^ヲ 雲を邀めて蓮は蓋を張る 重

82 泛^テ流^ニ葉^ハ漾^ス虹^ヲ 流に泛べて葉は船を漾はす 御

83 浦^ハ煙^ハ養^ハ眼^ヲ暗^シ 浦煙 養眼暗し 溪

84 紺^ハ苑^ハ杖^ハ鱗^ハ駢^シ 紺苑 杖鱗駢し 岳

85 蒲^ハ上^ハ円^ハ陀^ハ地^ハ 蒲上 円陀地 外

86 算中直急^ナ湊^{ナル} 算中 直にして急なる湊^{ながれ}

94 喚^イ雄^ヲ百拙^ハノ鷄^ヒ 雄を喚ぶ 百拙^{ハヒ}の鷄 潤

87 仮蛇^イ松偃^イ蹇^イ 仮蛇 松は偃蹇^{イヒ}

95 殘^イ生^ニ林有^イ素^ヒ 殘生 林に素有^{イヒ}

88 走^イ聞^イ穀饑^イ饕^イ 走聞 穀は饑饕

96 独^イ臥^イ土何^イ撈^ソ 独臥 土何の撈ぞ 外

89 文陣^イ廉^イ為^ハ鏐^ハ 文陣 廉を鏐と為す

97 規^ハ結^ニ旧交^ノ約^ヲ 規は旧交の約を結ぶ 峰

90 騷^イ筵^イ唾^イ是^イ玨^イ 騷筵 唾これ玨

98 樂^ハ操^ニ雅韻^ノ縱^ニ 樂は雅韻の縱たるを操る 竹

(40) 黃庭堅「紅粧倚荷蓋、水鏡写明鑄」(次韻曾子開舍人游籍田載荷花帰)。

99 竹台^イ涼赴^ク召^ニ 竹台 涼召すに赴く 節

(41) 紺園、仏寺のこと。沈佺期「紺園澄夕霽、碧殿下秋陰」(遊少林寺)。

100 菊圃^イ日勤^ニ稷^ル 菊圃 日に稷^うることを勤む 雲

(42) 『碧巖錄』「円陀陀地切忌認影」。

(45) 山の岩石が高く峻しいさま。『聚分韻略』「崆峒、サカシ、ケワシ。『文選・南都賦』「其山則崆峒嶠嶠」。

(43) 松の枝が曲がる様子。黃庭堅「臥龍偃蹇雷不驚、公与此君俱忘形」(次韻黃斌老所画横竹)。

(46) 黃庭堅「機巧生五兵、百拙可用過」(和答魏道輔寄懷)。

(44) 清廉さが武器の一部の意か。また「廉鏐」は鋭い文辞、『文心彫龍・封禪』に「義吐光芒、辞成廉鏐」。

(47) ゆかりがある。蘇軾「高人自与山有素、不待招邀滿庭戸」(越州張中舍寿樂堂)。こゝは隱遁の願望か。

91 箔^イ狂^イ轡^イ俯^イ仰^イ 箔狂して轡は俯仰 岳

支第四 慶長十七年四月二十八日

92 鞋^イ倦^イ路崆^イ峴^イ 鞋倦んで路は崆峴^{イヒ} 御

93 恨^イ蟀^イ六^イ安^イ蝶^イ 蟀を恨む 六安の蝶 溪

1 満城春四月 満城 春四月

2 無^ニ緑^ニ不^ト花^ナ枝^ナ 緑 花枝ならずと云ふこと無し 以心

3 酒^レ砌^ニ雨^ニ三^一日 砌に洒ぐ雨三日

4 有^ニ紅^ニ簇^ニ藥^ニ籬^ニ 紅の藥籬に簇がる有り 節

5 蝶^一衣^ニ常^ニ襯^ニ露^ニ 蝶衣 常に露に襯ず 雲

6 蛛^一簡^ニ幾^ニ經^ニ期^ニ 蛛簡 幾たびか期を経 御

7 魯^一変^メ儒^一帰^ス釋^ニ 魯変じて儒は釈に帰す 澗

8 熊^一高^ニ祖^ニ囑^ス尼^ニ 熊高くして祖尼に囑す 竹

9 甘^ハ閑^ニ勝^レ得^ル肉^ニ 閑を甘んずるは肉を得るに勝れり 賡

10 弄^メ相^ニ已^ニ攢^ム眉^ヲ 相を弄じてすでに眉を攢む 靈圭

(1) 用例は未見、木簡のことか。『爾雅』「蜺蛛、蜚蠊」。

(2) 『論語・雍也』「齊一変、至於魯。魯一変、至於道」。

(3) 達磨大師が伝法し、埋葬された熊耳山。唐・貫休「道朗居太山、達磨住熊耳」(寄大願和尚)。

(4) 眉を蹙め、不快か苦痛を表す。蘇軾「攢眉有底恨、得句不妨清」(正月一日雪中過淮謁客回作二首、其二)。

11 鵲^一国^ニ埋^レ憂^ヲ地 鵲国は憂を埋む地 賡

12 蝸^一廬^ニ容^レ膝^ヲ涯^ニ 蝸廬は膝を容るる涯 召

13 抛^一官^ヲ陶^カ上^ニ世^ニ 官を抛つ陶が上世 重

14 顧^レ我^ヲ阮^カ多^ニ岐^ニ 我を顧る阮が多岐 心

15 風^ハ転^ス猖^一狂^ノ柳 風は転ず 猖狂の柳 節

16 夏^ハ闌^{ナリ}濃^ニ淡^ニ葵 夏は闌なり 濃淡の葵 雲

17 繡^ニ雲^ヲ山^ニ蜀^ニ錦 雲を繡にして山は蜀錦 御

18 吟^フ沢^ニ午^ニ湘^ニ縲 沢に吟ふて午は湘縲 澗

19 霧^一起^テ龍^ニ淵^ニ潜^ル 霧起こりて龍淵く潜る 竹

20 灯^一枯^テ螢^ニ暗^ニ来^ル 灯枯れて螢暗に来る 賡

(5) 鵲国は蜀か。『文選』「百慮何為、至要在我。寄愁天上、埋憂地下」(仲長統「見志詩二首」其二)。

(6) 狭くて簡素な住まい。黄庭堅「初開蝸牛廬、中置獅子床」(次韻文潜同遊王舍人園)。

(7) いにしえ、また先代。阮籍「休哉上世士、万載垂清風」(詠懷、其七十一)。

(8) さまざまな岐路に迷うこと。「達人皆一貫、迷者自多

岐「齊己「言詩」。ここは阮籍の常軌を逸する行動を
いうか。

(9) 「屈原既放、遊於江潭、行吟沢畔」(漁父)。「午」は屈原
を記念する端午か。楊雄「叙弔楚之湘累」(反離騷)な
ど、「湘累」が屈原の入水をいうが、ここでは「縲」を
「累」の異体字としたか。宋・楊時「岸幘行人聊自適、
不応憔悴似湘縲」(渭水)。

21 涼声 先識竹 涼声 先に識るは竹 圭

22 月色 正供梨 月色 正に供するは梨 良

23 鰥夜弓弓短 鰥夜 弓弓短し 召

24 鷄堆曲曲奇 鷄堆 曲曲奇なり 心

25 樵歌憎乱雅 樵歌 雅を乱るるを憎む 雲

26 叢社足匡規 叢社 規を匡すに足れり 節

27 沢処無蚊径 処を沢ぶ蚊無き径 澗

28 掠虚作牯瀉 掠虚 牯と作る瀉 御

29 洗心蓬教海 心の蓬るを洗ふは教海 召

30 興道葉清時 道の葉たるを興すは清時

良

(10) 独り寝の姿と月の形を弓と比喻。「俯觀雲似蓋、低望月
如如弓」(王褒「輕拳篇」)。天文十二年一月二十七日和
漢聯句「隻夜臥如弓」(策彦周良)。

(11) 「鷄堆」は鷄雀。『莊子・達生篇』「譬之若載鼃以車馬、
樂鷄以鍾鼓也」。「鷄」は「鷄」に同じ。「曲曲」は鷄雀
を樂しませる楽曲か。

(12) 黃庭堅「汚泥虎迹交、叢社鳥声楽」(按田)。
(13) 虚名を盗む。懷海禪師「放出瀉山水牯牛、無人堅執鼻繩
頭」。

31 捷辯鶯兼孟 捷辯 鶯と孟と 御

32 潔身蟬与夷 潔身 蟬と夷と 圭

33 宮粧梅貴瘦 宮粧 梅は瘦するを貴ふ 心

34 旬鍛稿覃思 旬鍛 稿は思ひを覃す 召

35 胸寸蟠峯九 胸は寸 峯九を蟠らす 雲

36 脚双瞞漢卑 脚は双 漢の卑しきを瞞す 節

37 巖棲侵座貉 巖棲 座を侵す貉 廣

38 江―雪 宿^{スル}沙 鷯 江雪 沙に宿する鷯^シ 竹

39 湿^ス耳 枕^{スル}流楚 耳を湿す 流に枕する楚 召

40 光^ス威 鞭^ツ日 羲 威を光す 日に鞭^ツ羲⁸ 雲

(14) 曹植「唯夫蟬之清素」(芸文類聚・蟬賦)、蘇軾「飲風蟬

至潔、長吟不改調」(定惠院顓師為余竹下開嘯軒)。「夷」
は首陽山で餓死した伯夷。

(15) 漢武帝の娘の寿陽公主が施した梅花粧。「武帝女、寿陽

公主、人日臥於含章檐下、梅花落公主額上、成五出之花、
私之不去、皇后留之。自後有梅花粧、後人多效之」(太

平御覽・卷九七〇)。

(16) 集雲守藤「勉旃季鍊又句鍛、和靖名高香影梅」(押小子
沅也和)。「覃思」は深く思うこと。

(17) 天隱龍沢「南隣北舍未相逢、告別求詩惱寸胸」(送竹浦
藏主帰東奥)。黄庭堅「胸蟠万卷夜光寒、筆倒三江硯滴

干」(子瞻去春侍立迹英子由秋冬間相繼入侍作詩各述所
懷予亦次韻四首、其二)。「畢九」は九華山か。

(18) 杜甫「義和鞭白日、少昊行清秋」(同諸公登慈恩寺塔)。

41 僅^ス觀 如幻ノ幻^ヲ 僅は如幻の幻を觀ず 良

42 攀^ハ受^ニ大慈ノ慈^ヲ 攀は大慈の慈を受く 心

43 佳―客 喜堅―坐^ヲ 佳客 堅坐を喜ぶ 潤

44 叔^ハ郵 酬^ニ旧知^ニ 督郵 旧知に酬め 節

45 惠 中^ニ霞際ノ杏 中に恵^{イフ}しみあり 霞際²¹の杏 圭

46 標^ハ外^ニ架辺ノ藤 外に標²²はるる架辺の藤 召

47 多―景 樓娛^ム目 多景樓 目を娛²³しむ 御

48 洞庭湖 濯^レ髭 洞庭湖 髭を濯²⁴ふ 潤

49 学^ハ秋蛇ノ雁―字 秋蛇を学ぶは雁字 召

50 凝^ス甲―螺 鴛帷 甲螺を凝^スらすは鴛帷 節

(19) 明攀。『華嚴經』「布施持戒、清淨満足、譬如真金、置攀
石中、如法鍊已、離一切垢、転復明淨」。

(20) 長く座ること。唐・張祜「便知心是仏、堅坐对寒灰」(贈
廬山僧)。黄庭堅「何以觀音老人、堅坐不去耶」(戲詠高

節亭辺山攀花二首)。

(21) 杏はここでは酒も指す。『三体詩』「杏艶桃嬌奪晚霞、楽
遊無廟有年華」(唐彦謙「曲江春望」)。

(22) 韓愈「清声而便体、秀外而惠中」(古文真宝・送李願帰
盤谷序)。

(23) 蘇軾「多景楼上弹神曲、欲断哀弦再三促」(潤州甘露寺
弹箏)。

(24) 漢詩に鬢を洗う表現は少ない。蘇軾「江淮旱久塵土惡、朝來清雨濯鬢鬚」(喜劉景文至)。

51 肯^{スルハ}与^ニ芳盟^ヲ蕙 肯へて芳盟を与にするは蕙

52 不^レ忘^ル久要^ヲ 久要を忘れずは蘇

53 扁^ニ方輪^ニ独^ニ臥^ニ 扁方 独臥に輸く

54 曹^ニ派^ニ配^ス重離^ヲ 曹派 重離を配す

55 入^ル戸^ニ苦吟^ノ 戸に入る苦吟の蟀

56 煨^ス鑪^ニ疎懶^ノ 鑪に煨する疎懶の鴟

57 榴^ヲ翻^テ如撥^カ火^ヲ 榴翻りて火を撥るが如し

58 橘^ヲ割^テ覚^レ困^ヲ 橘割きて某を困むと覚ゆ

59 鏡^ニ暈^シ隱^ス星^ノ曜^ヲ 鏡暈して星の曜きを隠す

60 食^ニ飢^ニ嫌^ニ埃^ノ緇^ヲ 食飢にして埃の緇を嫌ふ

(25) 旧交。曹植「久要不可忘、薄終義所尤」(文選・箴)

(26) 扁鵲の医方か。

(27) 曹派は曹溪一派、南宗か。「重離」は太陽。

(28) 蹲鴟、大きな芋。また「疎懶」は唐高僧明瓚の別号。李綱「禪房夜坐腹半飢、寒爐撥火煨蹲鴟」(煨芋)。また蘇軾「他年記此味、芋火對懶殘」。

(29) 橘が花を咲かすこと。蘇軾「門外橘花猶的皤、牆頭荔子已爛斑」(三月二十九日一首、其の二)。

(30) 飢食は粗餐。「飢粥淡飯、随分過時」(虛堂和尚語録)。

「埃」は煙突。

61 飽^ハ休^ス酥酪^ヲ乳 飽かば休す 酥酪乳

62 聽^テ好^シ石金^ヲ糸 聴きて好し 石金糸

63 韓^ノ耳^ヲ竭^ニ槩^ノ力^ヲ 韓のみ 槩の力を竭す

64 鎌^ハ何^メ藏^ス櫝^ノ 鎌は何して櫝の槩を藏す

65 屐^ハ衝^テ泥^ヲ既^ニ 屐は泥を衝きて既に

66 杖^ハ探^テ境^ヲ相^ニ支^ニ 杖は境を探して相支ふ

67 行^ニ樂^シ行^ニ窩^ニ ゆくゆく樂しむ 行窩の邵

68 巧^ニ奇^ニ巧^ニ匠^ノ 巧みに奇なり 巧匠の倅

69 松^ハ雖^モ苗^ト棟^ノ質^ヲ 松は苗と雖も棟質

70 蓉^ハ並^レ蓍^シ煙脂 蓉は並蓍の煙脂 圭

(31) 韓愈「長檠八尺空自長、短檠二尺便且光」(短灯檠歌)。

(32) 『史記・周本記』「夏帝卜殺之与去之与止之、莫吉。卜請其幣而藏之、乃吉。於是布幣而策告之、龍亡而檠在、檠而去」。

(33) 宋・邵雍の住居「安樂窩」。「洛西我亦行窩在、雁齒橋頭晚問春」(瑞溪周鳳「春橋晚歩」)。

71 蜂^ハ効^テ楚腰^ニ否 蜂は楚腰に効や否や 雲

72 鷁^ハ乗^テ越^テ女^ニ之^ヲ 鷁は越女を乗せて之く 節

73 勃^ハ如^ク霜後^ノ菊 勃如たり 霜後の菊 御

74 拈^ハ者^ヲ凍儂^ノ藜 拈ずる者は凍儂の藜 良

75 寿^{キズ}法^ニ七生^ノ偃 法に寿す 七生の偃 召

76 涉^ル書^ニ二祖^ノ姫 書に渉る 二祖の姫 御

77 寺^ハ鐘^ニ応^テ梵^ノ答 寺は鐘応梵答 節

78 座^ハ史^ノ酌^シ經^ノ炊 座は史酌經炊 心

79 村^ハ暮^シ鼓^ノ嘈^ノ嗽^ヲ 村暮れて鼓嘈嗽たり 御

80 宸^ハ遊^シ褐^ノ忸^ニ怩^ニ 宸遊 褐は忸怩たり 澗

(34) 『韓非子・二柄』「楚靈王好細腰、而國中多餓人」。鄭鏗「妓妍学楚腰」(玉台新詠)。

(35) 西施をはじめ、越の国に美女が多い。

(36) 『論語・郷党』「君召使賓、色勃如也、足躍如也」。

(37) 『聖一國師語録』「拈云、三箇老凍儂、一人圓陀陀地、一人曲彎彎地、一人黒漆漆地」。

(38) 鐘と説經の声とが響き合うこと。『虚堂和尚語録』「刹竿標処、鐘梵相聞」。

(39) 楊万里「書生一腹無十围、經炊史酌不曾飢」(寄題邵武張漢傑運千万卷楼)。「史酌經炊双鬢雪、都里詠歌一囊詩」(琴叔「奉寄睡隱主公」)。

(40) 太鼓の声。韓愈「錚呒宮夜辟、嘈嗽鼓晨撾」(奉和杜相公太清宮紀事陳誠上李相公十六韻)。

81 雜^テ瓊^ニ玦^ヲ借^リ潤^ヲ 瓊に雜りて玦は潤を借る 雲

82 進^デ履^ヲ卷^ニ開^キ基 履を進めて卷は基を開く 心

83 南^ニ面^シ南軍^ノ恵 南面 南軍の恵 御

84 東^ニ顰^ミ東醜^ノ施 東顰 東醜の施 良

85 靄^ア浮^フ吳^ウ欲^セ拆^ト 靄^ア浮^フびて吳^ウ拆^トかんと欲^スす

竹

93 里^リ仁^ニ皆^ハ積^セ善^ヲ 里^リ仁^ニみな善^ヲを積^セむ

潤

86 台^ア築^チ晉^シ猶^ユ危^シ 台^ア築^チきて晉^シは猶^ユ危^シし

麋

94 沙^サ揭^ケ之^ノ扶^フ衰^ヲ 沙^サ揭^ケこれ衰^ヲへたるを扶^フく

御

87 筓^ハ列^リ土^ツ兄^イ弟^{テイ} 筓^ハは列^リ土^ツの兄^イ弟^{テイ}

心

95 驢^ロ洩^セ甫^フ馱^ス醉^ツ 驢^ロ洩^セりて甫^フ醉^ツひを馱^スす

心

88 椿^チ延^{エン}齡^{リョウ}耆^シ耆^シ 椿^チは延^{エン}齡^{リョウ}の耆^シ耆^シ

竹

96 蛩^シ吟^{イン}島^{シマ}論^ロ詩^シ 蛩^シ吟^{イン}じて島^{シマ}詩^シを論^ロず

節

89 糸^ヘ新^ニ締^ス患^ヱ髮^{ハツ} 糸^ヘは新^ニたなり 患^ヱを締^スめる髮^{ハツ}

圭

97 広^{コウ}長^{チヤウ}溪^{セキ}罵^バ仏^{フツ} 広^{コウ}長^{チヤウ}は仏^{フツ}を罵^バる

圭

90 粉^コ抹^マ極^{コク}妍^{ケン}姿^サ 粉^コは抹^マす 妍^{ケン}を極^{コク}むる姿^サ

節

98 勘^{カン}破^パ室^{シツ}參^{サン}師^シ 勘^{カン}破^パ室^{シツ}は師^シに參^{サン}ず

麋

(41) 蘇^ソ軾^{シツ}「憐^レ我^ガ枯^コ槁^{コウ}質^{シツ}、借^レ潤^{ジュン}生^{セイ}華^カ滋^シ」(次韻孔文仲推官見贈)。

99 華^{ハナサク}德^ニ文^ニ房^ニ友^ニ 德^ニに華^{ハナサク}く 文^ニ房^ニの友^ニ

召

(42) 吳^ウは「天^{テン}吳^ウ、こゝでは天^{テン}吳^ウの図^ズを開^キくことか。王安石「寒^{カン}拆^{セツ}天^{テン}吳^ウ図^ズ、飢^キ糴^{ロク}太^{タイ}官^{カン}粟^{リツ}」(次秦夷行觀老杜画像韻)。

100 草^{コウ}章^ニ御^ニ席^ニ詞^ニ 章^ニを草^{コウ}にす 御^ニ席^ニの詞^ニ

竹

(43) 晋^{シン}は簫^{セウ}を吹^フくのを得意^{トシ}とする王^{ワウ}子^シ晋^{シン}。「台^{タイ}」は鳳^{フウ}台^{タイ}か。簫^{セウ}史^シが簫^{セウ}を得意^{トシ}とする。

(46) 『論語・里^リ仁^ニ』「里^リ仁^ニ為^ニ美^ニ」。『易經』「積^{セキ}善^{セン}之^ノ家^カ、必^{カナラ}有^{アル}余^{ヨリ}慶^{ケイ}」。

(44) 白^{ハク}居^キ易^イ「姉^シ妹^{メイ}弟^{テイ}兄^イ皆^ハ烈^{リツ}士^シ、可^カ憐^{レン}光^{コウ}彩^{サイ}生^{セイ}門^{モン}戸^コ」(長恨歌)。

(47) 黃^{ワウ}庭^{テイ}堅^{ケン}「宗^{ソウ}文^{ブン}守^{シュ}家^カ宗^{ソウ}武^ブ扶^フ、落^{ラク}日^{ニツ}蹇^{セン}驢^ロ馱^ス醉^ツ起^キ」(老杜浣花溪図引)。

(45) 『莊子・逍^{セウ}遙^{ヤウ}遊^ユ』「上^{ジョウ}古^コ有^{アル}大^{ダイ}椿^{チン}者^{シャ}、以^{ヨリ}八^{ハチ}千^{セン}歲^{サイ}為^ニ春^{シュン}、八^{ハチ}千^{セン}歲^{サイ}為^ニ秋^{シュウ}」。唐^{テイ}・吳^ウ筠^{ユン}「綿^{メン}綿^{メン}慶^{ケイ}不^フ極^{コク}、誰^{ナニ}謂^フ椿^{チン}齡^{リョウ}多^タ」(步虚詞)。

(48) 蘇^ソ軾^{シツ}「溪^{セキ}声^{セイ}便^ヒ是^シ広^{コウ}長^{チヤウ}舌^{ゼツ}、山^{サン}色^{シキ}豈^{ナラ}非^ヒ清^{セイ}淨^{ジョウ}身^{シン}」(贈東林總長老)。

91 倦^{ケン}則^ニ欠^{ケツ}空^{クウ}閣^{カク} 倦^{ケン}みて則^ニち欠^{ケツ}するは空^{クウ}閣^{カク}

良

92 運^{ウン}無^ム疆^{キヤウ}禁^{キン}一^{イチ}堦^{カイ} 運^{ウン}無^ムきは禁^{キン}堦^{カイ}

雲

微第五 慶長十八年四月十六日

1 投^メ老^ヲ勝^ル花^ニ緑^ニ 老を花に勝る緑に投じて⁽¹⁾

2 夏^ニ鶯^ヲ覚^ス昨^ノ非^ニ 夏鶯 昨非を覚ゆ⁽²⁾

3 伝^テ神^ヲ臨^{スル}楮^ニ草^ニ 神を楮に臨する草に伝へて⁽³⁾

4 霜^ニ兔^ヲ画^ス煙^ヲ霏^ヲ 霜兔 煙霏を画す

5 選^ク挙^ク近^ノ時^ノ直 選び挙ぐ 近時の直

6 偽^ニ逋^ル列^ノ壑^ヲ譏^リ 偽り逋る 列壑の誇り⁽⁴⁾

7 氷^ニ重^ク泉^ヲ咽^テ愴^ム 氷重ねて泉咽んで愴しむ⁽⁵⁾

8 星^ヲ聚^テ局^ヲ争^ヒ困^ム 星聚りて局争ひて困む

9 鴉^ノ字^ヲ学^ブ鐘^ヲ瘦^ヲ 鴉字 鐘が瘦するを学ぶ

10 蟪^ノ孟^ヲ擬^ス孝^ヲ肥^カ 蟪孟 孝が肥えたるに擬す⁽⁶⁾

(1) 隠退すること。唐・牟融「念我故人劳碌久、不如告老臥滄洲」(処厚遊杭作詩寄之)。

(2) 鶯の音色が曾てのと異なる。唐・雍陶「閉門無事後、此地即山中。但覺鳥声異、不知人境同」(和劉補欠秋園寓興六首、其二)。

(3) 楮遂良の草体を臨書すること。

竹

圭

良

溪

雲

節

御

重

(4) 『古文真宝』「列壑争譏、攢峰竦詭」(北山移文)。

(5) 『古文真宝』「風雲懷其帶憤、石泉咽而下愴」(北山移文)。

(6) 蘇軾「蟪背似覆孟、蟪頤似偃月」(蝦蟇背)。

11 池^ヲ晴^テ荷^ヲ曝^ス背^ヲ 池晴れて荷背を曝す

宮

12 塞^ノ令^ヲ木^ヲ知^レ威^ヲ 塞の令 木威を知る⁽⁷⁾

潤

13 碎^レ玉^ヲ撒^{スル}風^ニ露^ニ 玉を砕く風に撒する露

言緒

14 擲^テ竿^ヲ釣^レ月^ニ磯^ニ 竿を擲ちて月に釣る磯⁽⁸⁾

竹

15 簑^ノ閑^{カニメ}鷗^ヲ与^ニ籍^{ヨル} 簑は閑かにして鷗とともに籍る⁽⁹⁾

圭

16 絮^ノ輕^ク蝶^ヲ齊^ニ飛^ブ 絮は輕くして蝶齊しく飛ぶ⁽¹⁰⁾

良

17 春^ノ酌^ヲ惜^シ春^ヲ李^ヲ 春酌 春を惜しむ李

溪

18 石^ヲ膏^ヲ致^ス石^ヲ微^ニ 石膏 石を致す微

雲

19 聽^ニ無^シ声^ヲ昼^ノ雨^ヲ 聴くに声無きは昼雨

節

20 富^テ且^ニ貴^ハ金^ヲ扉^ヲ 富みて且つ貴は金扉

御

(7) 『礼記・月令』「(孟冬之月) 天氣上騰、地氣下降、天地

不通、閉塞而成冬」。

(8) 月影に釣りする、隠逸の生活。蘇軾「潮随暗浪雪山傾、
遠浦漁舟釣月明」(題金山寺回文體)。

21 画 錦除^テ楓^フ執 画 錦 楓を除きていずれ 重

22 世^ト塵兼^ト竹違^フ 世塵 竹と違ふ 宮

23 高僧^ヘ千^ノ仞^ノ鳳 高僧は千仞の鳳 潤

24 相者^ハ九^カ方^ガ駢 相者は九方が駢^ハ 圭

25 意足^テ求^ル灯^ヘ婢 意足りて求むるは灯婢^ハ 良

26 手^ニ工^{スル}彈^ハ瑟^ハ妃 手工にして弾ずるは瑟妃 重

27 万^ノ年^ノ松^ハ独^ハ立 万年 松は独立 竹

28 七^ハ早^ハ草^ハ先^ハ啼^ク 七早^ハ 草は先に啼く^ハ 御

29 扞^テ処^ル就^ニ湯^ニ尹 扞びて処る 湯に就く尹^ハ 節

30 仁^ハ憂^フ諫^ム紂^ヲ微 仁は憂ふ 紂を諫むは微 潤

(9) 李白「鳳飛九千仞、五章備綵珍」(古風五首、其の四)。

(10) 九方皋、馬を相る名人。黄庭堅「世上豈無千里馬、人中

難得九方皋」(過平与李子先詩)。東第一75句目「相人歟
異曲」と既出。

(11) 五代・王仁裕『開元天宝遺事・燈婢』に「寧王宮中、每
夜於帳前羅列木彫矮婢、飾以彩繪、各執華燈、自昏達旦、
故目之為燈婢」。

(12) 『莊子・秋水』「湯之時、八年七旱、而崖不為加損」。こ
こは長く続く旱魃。

(13) 伊尹。商湯を補佐して夏を滅ぼした。

31 雪^ニ盈^ニ瑤^ニ我^ニ室^ニ 雪盈ちて我が室を瑤にす^ハ 雲

32 雲^ニ凝^ニ紫^ニ皇^ニ闥^ニ 雲凝りて皇闥を紫にす 竹

33 俚^ハ語^ハ農^ハ桑^ハ伝 俚語 農桑の伝 御

34 讖^ハ文^ハ嫩^ハ桂^ハ賁 讖文^ハ 嫩桂の賁 雲

35 講^ハ鐘^ハ嵩^ハ在^ニ耳^ニ 講鐘 嵩は耳に在り 節

36 寒^ハ食^ハ晋^ハ食^ハ腓^ハ 寒食 晋は腓を食す^ハ 潤

37 壳^ハ扇^ハ扇^ハ恩^ハ浅^ハ 扇を売りて扇恩浅し^ハ 溪

38 操^ハ船^ハ船^ハ子^ハ帰^ル 船を操りて船子帰る 御

39 怒^ハ潮^ハ驚^ハ睡^ハ驚 怒潮 睡を驚かす驚 宮

40 開市識肥^{ルツ} 開市 肥^{（一五）}えたる^{（一五）} 穉^{（一五）}を識^{（一五）}る 良

(14) 玉で造られた美しい部屋を瑤室という。黄庭堅「石門竹径幾時^{（一五）}有、瓊台瑤室至今疑」（題淡山岩二首、其二）。

(15) 『仏祖歷代通載』「多羅日（中略）聰吾偈曰、路行跨水復逢羊、獨自悽悽暗度江。日下可憐双象馬、二株嫩桂久昌昌。復演八偈。皆預為識」（念常集）。

(16) 肪はふくらみ。寒食の由来である介子推の故事。「晋文公重耳亡、過曹、里鳧須從、因盜重耳資而亡、餒不能行、子推割股肉以食重耳、然後能行」（韓詩外伝・卷十）。

(17) 『五燈会元』「壳扇老婆手遮日」（太子道一禪師）。景徐々周麟「老婆遮日市橋辺、三伏之交壳扇天」（扇市）。

(18) 『莊子・知北遊篇』「正獲之問於監市履穉也、每下愈況」。黄庭堅「庖丁解牛妙世故、監市履穉知民心」（寄上叔父三首、其一）。

41 履薄利名^{（一五）} 路 薄^{（一五）}きを履^{（一五）}む利名^{（一五）}の路 御

42 枕交^{（一五）} 衛鎮^{（一五）}の穉^{（一五）} 交^{（一五）}に枕^{（一五）}む衛鎮^{（一五）}の穉^{（一五）} 雲

43 蔭^{（一五）}行^{（一五）} 離館^{（一五）}の柳^{（一五）} 行^{（一五）}に蔭^{（一五）}す 離館^{（一五）}の柳^{（一五）} 重

44 谷^{（一五）}性^{（一五）} 隱棲^{（一五）}の薇^{（一五）} 性^{（一五）}を谷^{（一五）}ふ 隱棲^{（一五）}の薇^{（一五）} 圭

45 蟬^{（一五）}潔^{（一五）} 遺^{（一五）}夷^{（一五）}志^{（一五）} 蟬^{（一五）}潔^{（一五）}くして夷^{（一五）}が志^{（一五）}を遺^{（一五）}す 良

46 鱸^{（一五）}濃^{（一五）} 見^{（一五）} 翰^{（一五）}幾^{（一五）} 鱸^{（一五）}濃^{（一五）}かにして翰^{（一五）}が幾^{（一五）}を見る 溪

47 醉^{（一五）} 吳歌^{（一五）} 楚舞^{（一五）} 醉^{（一五）}ひては吳歌^{（一五）}楚舞^{（一五）} 節

48 戰^{（一五）}号^{（一五）} 滅^{（一五）} 虞依^{（一五）} 戰^{（一五）}ひては号^{（一五）}滅^{（一五）}び虞依^{（一五）}る 竹

49 健^{（一五）} 鞋^{（一五）} 欺^{（一五）} 屈^{（一五）} 産^{（一五）} 健^{（一五）}鞋^{（一五）} 屈^{（一五）}産^{（一五）}を欺^{（一五）}く 雲

50 活^{（一五）} 納^{（一五）} 越^{（一五）} 群^{（一五）} 機^{（一五）} 活^{（一五）}納^{（一五）} 群^{（一五）}機^{（一五）}を越^{（一五）}ゆ 節

(19) 蟬を伯夷と喩える。梅心「柳陰深处夕陽斜、聽得新蟬第一聲。飲露枝頭伯夷志、羽虫今視聖之清」（柳陰新蟬）。

(20) 張翰が故郷の鱸魚鱠を思うため、辞官して帰郷隱栖したという故事（世説新語・識鑒）。『三体詩』「聞說故園香稻熟、片帆帰去就鱸魚」（李郢「江亭秋霽」）。

(21) 良馬の産地、春秋時代晋の地名。「孟子」「百里奚虞人也、晋人以垂棘之璧与屈産之乘、佞道於虞以閭馯、宮之奇諫」。

(22) 活納僧。希叟紹曇「活納僧、生鉄鑄。吐出鉄心肝、掛起鉄面具」（偈頌一百零四首、其五十五）。「群機」は万物。

唐・齊己「群機喧白昼、陸海漲黄塵」（答知己自闕下寄書）。希叟紹曇「妙応群機、亨衢得路」偈頌一百零二首、其八）。

51 未^{（一五）} 頭^{（一五）} 真^{（一五）} 溪^{（一五）} 說 未^{（一五）}頭^{（一五）}真^{（一五）}は溪^{（一五）}說 圭

52 可憐生^ハ歳飢^ニ 可憐生^{コレン}は歳飢

御 秦^シ 炎^{エン} 盛^{セイ} 屋^ヤ 秦^シ 炎^{エン} は屋に盛んなり

竹

53 筆耕^ニ 常食^ニ 硯^ニ 筆耕^ニ 常に硯^ニに食^ハむ

澗 若^ニ 下店^ニ 翻^フ 旗^ヲ 若^ニ 下店^ニは旗を翻す

節

54 印證^ニ 敬^ニ 拈^ニ 衣^ヲ 印證^ニ 敬^ニひて衣^ヲを拈^ニず

雲 霧^ニ 罅^ニ 桃^ニ 耶^ニ 杏^ニ 霧^ニ 罅^ニ 桃^ニか杏

雲

55 鉄^ニ 舌^ニ 看^ニ 経^ニ 運^ニ 鉄^ニ 舌^ニ 看^ニ 経^ニの運

節 64 径^ハ 荒^ニ 苔^ニ 与^ニ 葳^ニ 径^ハは荒れたり 苔^ニと葳

溪

56 白^ニ 瘡^ニ 施^ニ 藥^ニ 暉^ニ 白^ニ 瘡^ニ 藥^ニを施^ニす暉

宮 65 愛^ニ 寛^ニ 閑^ニ 野^ニ 鹿^ニ 寛^ニ閑^ニの野を愛するは鹿

御

57 燕^ニ 泥^ハ 寧^ニ 塑^ニ 像^ニ 燕^ニ 泥^ハ 寧^ニ 塑^ニ 像^ニに塑せんや

澗 66 嘆^ニ 寂^ニ 寞^ニ 居^ニ 蟻^ニ 寂^ニ寞^ニの居を嘆ずるは蟻

良

58 鰥^ニ 戸^ニ 每^ニ 成^ニ 啼^ニ 鰥^ニ 戸^ニ つねに啼^ニを成^ニす

節 67 隻^ニ 臥^ニ 更^ニ 添^ニ 線^ニ 隻^ニ 臥^ニ 更^ニ 添^ニ 線^ニを添^ニふ

圭

59 双^ニ 月^ニ 予^ニ 延^ニ 遇^ニ 双^ニ 月^ニ 予^ニは延^ニんで遇^ニふ

重 68 于^ニ 飛^ニ 電^ニ 踊^ニ 璣^ニ こ^ニこに飛^ニびて電^ニ璣^ニを踊^ニす

竹

60 長^ニ 城^ニ 民^ニ 久^ニ 詵^ニ 長^ニ 城^ニ 民^ニは久^ニしく詵^ニる

圭

(23) 『無量義経序』「復云未顕真実、始発求実之冥機」。

(24) 『金剛経序』「入城持鉢、洗足宴臥、幸自可憐生、無端被善現出来道個希有」。

(25) 弁才の優れること。『虚堂和尚語録』「師云、釘嘴鉄舌得人憎」。

(26) 策彦周良「双月偶然和雪来、一爐正好挽春回」(爐辺話春)。

70 都^ツ 嗜^ニ 画^ニ 簾^ニ 幃^ニ 都^ツ 嗜^ニ 簾^ニ 幃^ニに画^ニく

御

(27) 酒の名。蘇軾「但有樽中若下、何須墓上征西」(西太一見王荊公旧詩、偶次其韻二首、其二)。

(28) 虫の名。『詩経・豳風』「伊威在室、蠨蛸在戸」。蘇軾「石建方欣洗牖則、姜龐不解嘆蠨蛸」。

(29) ともに飛ぶ。『詩経・周南』「黄鳥于飛、集于灌木、其鳴」。

啾啾」。

(32) 英甫永雄「太平有象洛陽衢、群鳥声声祝聖図」。

71 水―殿 涼―間―出ッ

水殿 涼は間に出づ

宮

81 断―橋 車 脱ッ 轄ッ

断橋 車轄を脱す

溪

72 暮―天 景―漸 稀

暮天 景は漸く稀なり

重

82 廃―宅 壁 蔵ッ 葦ッ

廃宅 壁葦を蔵す

圭

73 壺―畢、坡―目―玩

壺畢は坡が目玩

良

83 胸―宇 小―鄒 魯ッ

胸宇 鄒魯を小なりとす

御

74 柴―泰 舜―功―巍

泰に柴たく舜の功巍

竹

84 辯―瀾 蔑―泗 沂ッ

辯瀾 泗沂を蔑ろにす

節

75 酒―力 渡―河―象

酒力 河を渡る象

御

85 垂―綸 何 重―鼎ッ

綸を垂れてなんぞ鼎を重ねん

竹

76 算―齡 追 電―驪

算齡 電を追ふ驪

宮

86 叱―簠 已 頒ッ 緋

簠を叱して已に緋を頒つ

雲

77 探―幽 吟 步 疾ッ

幽を探して吟歩疾し

溪

87 村 晚 童 鞭ッ 犢ッ

村晩れて童犢に鞭つ

節

78 伸―賀 聖―図 祈ッ

賀を伸べて聖図祈る

澗

88 田―遊 虞 弋 羣ッ

田遊 虞羣を弋す

雲

79 秋―幾 寿―盃 菊

秋幾ばくして寿盃の菊

雲

89 負―喧 袍 恋―恋

喧を負ひて袍 恋恋

圭

80 旧―題 漁―火 菲

旧題 漁火の菲

澗

90 去―里 履 斐 妻 斐

里を去りて履 斐妻斐

良

(30) 蘇軾「五嶺莫愁千嶂外、九華今在一壺中」(壺中九華詩)。

(31) 『尚書・舜典』「歳二月、東巡守、至于岱宗、柴望秩于山川」。

(33) 断橋で車のくさびが落ちた。蘇軾「脱轄已応生井沫、解衣聊復起庖煙」(次韻黄魯直寄題郭明父府推潁州西齋二首、其一)。

(34) 孔子の旧宅、魯壁という故事。蘇轍「壁蔵待知者、金石

開旧宅」。

(35) 孟子が生まれた鄒と孔子の故郷魯。東第一 93 句目「鄒魯
柝交響」に既出。

(36) 嬪々、鳥を射落とす矢。虞は虞人、山沢を管理する官吏。
田遊は狩猟。

(37) 日を浴びること。戦国時代範雎と須賈の故事「綈袍恋
恋」。

(38) 『漢書・楊雄伝』「昔仲尼之去魯兮、悽悽遲遲而周邁」。

91 積霽杖迷昼ニ 積霽 杖昼に迷ふ

92 旅檐琴誤湄ヲ 旅檐 琴湄を誤る

93 商颺桐落帽ヲ 商颺(39) 桐帽を落とす

94 天廐秣拋轡ヲ 天廐 秣轡を拋つ(40)

95 恢武武興漢ヲ 武を恢めて武は漢を興す

96 被堅堅次肥ニ 堅を被して堅は肥に次す

97 縁緇新刷鶴ニ 緇を縁にす 新たに刷ふ鶴(41)

98 下炬復依蟻 下炬 復依る蟻(42)

99 寵渥無乾処ニ 寵渥 乾ける処無し

100 太平仰德輝ヲ 太平 德輝を仰ぐ 圭

(39) 秋風。秋風に吹き落とされる桐の葉を孟嘉の落帽に譬え
る。『晋書・孟嘉伝』「九月九日（中略）有風至、吹嘉帽
墮落、嘉不之覺。」

(40) くつばみを外す。天子の廐で馬のくつばみを外すこと
か。

魚第六 慶長十七年八月十四日

1 何数庾楼興ニ 何ぞ庾楼の興を数へん(43)

2 御簾月上初 御簾 月の上る初 良

3 似逢堯代穩ニ 堯代の穩やかなるに逢ふに似たり(44)

4 恩賜露降餘 恩賜 露の降る餘 召

5 非礼戴冠雉 非礼 冠を戴く雉(45) 岳

6 可憐止箔魚 可憐 箔に止まる魚 澗

7 搏波船翼様 波に搏つて船翼様 重

8 望^テ闕^ニ 鞠^ニ躬^ニ如^ク 闕に望みて鞠躬如たり 御

9 仕^ニ路^ニ並^ス 瞿^ニ灋^ニ 仕路 瞿灋を並す 賢

10 学^ニ庠^ニ纂^ム 禄^ム渠^ニ 学庠 禄渠を纂む 雲

(1) 江西九江にある庾公楼、庾亮が建てたと伝えられる。白居易「三百年來庾楼上、曾經多少望鄉人」(庾楼眺望)。

(2) 雉は種類によって頭部に冠と見立てられる羽がある。元稹「論才賦命不相干、鳳有文章雉有冠」(寄樂天二首、其二)。

(3) 『論語・鄉党』「入公門、鞠躬如也、如不容」。

(4) 瞿塘峽と灋灋堆、ともに長江の難所。李白「十六君遠行、瞿塘灋灋堆」(長干行)。

(5) 天祿閣と石渠閣、ともに漢代皇室が蔵書する建物。蘇軾「君家四壁如相如、卷藏天祿吞石渠」(張竟辰永康所居万卷堂)。

11 風窓 燈瀑^潤 風窓 燈瀑^潤 溪

12 冬^ニ嶺^ニ帽^ニ雲^ニ舒^ニ 冬嶺 帽雲^の舒^ぶ 竹

13 雪^ハ續^ニ 逋^カ梅^ニ景^ニ 雪は逋が梅景に續ぐ 召

14 隱^ハ移^ス 陶^カ菊^ニ居^ニ 隱は陶が菊居を移す 良

15 潮^ニ狂^ニ 鷗^ニ後^ニ素^ニ 潮狂して鷗素を後にす 召

16 鄉^ニ異^ニ 雁^ニ通^ニ書^ニ 郷異にして雁書を通ず 岳

17 欺^レ鉄^ニ 卅^カ年^ノ節^ニ 鉄を欺く廿年の節 潤

18 曝^ス 褌^ニ七^ニ夕^ノ 褌を曝す七夕の虚 重

19 憂^テ貪^ニ 憂^ニ累^ニ百^ニ 貪を憂ひて憂百を累ぬ 御

20 業^ニ拙^ニ 業^ニ勤^ニ 拙を業として業諸れを勤む 溪

(6) 林逋「疎影橫斜水清淺、暗香浮動月黃昏」(山園小梅)。

(7) 『論語・八佾』「繪事後素」。江第三9句目「後素鶴前立」。

(8) 『蒙求』蘇武持節。16句の雁書も蘇武にまつわる故事。

(9) 『晋書・阮咸伝』「七月七日、北阮盛晒衣服、皆錦綺絜目。咸以竿掛大布犢鼻于庭」。

(10) 元稹「二賢得進勝累百、二賢得進同周召」(和李校書新題樂府十二首、其三、五弦彈)。

21 耕^ニ釣^ニ 雖^ニ生^ニ計^ニ 耕釣 生計と雖も 雲

22 利^ニ名^ニ 奈^ニ美^ニ譽^ニ 利名 美譽をいかんせん 御

23 翠^ニ濃^ニ 山^ニ玉^ニ潔^ニ 翠濃やかにして山玉の如くに潔し 竹

24 草 偃^レ郭 煙^ニ鋤^一 草偃して郭は煙に鋤く

召

25 蓑^一眼 万 行^ノ涙 蓑眼 万行の涙

重

26 粟^一肌 五 種^ノ痘 粟肌 五種の痘

潤

27 西^一颺 黄 塞^ク向^{マト} 西颺 黄向を塞ぐ

良

28 乾^一土 蔡 嘗^ム咀^ラ 乾土 蔡咀きを嘗む

雲

29 奚^一自 鐘 聴^レ一^ヲ 奚自鐘は一を聴く

溪

30 衰 哉 鏡 櫛^{ツル}疎^ラ 衰ふかな鏡疎きを櫛る

竹

(11) 雲煙の中で耕作する隱遁生活。南宋・方岳「鋤煙荷雨自村村、不慣高車入里門」(次韻潘令君訪予半村)。

(12) 漢・蔡琰(蔡文姬)が匈奴に略奪されていたこと。「身執略兮入西閤、歷險阻兮之羌蛮」(悲憤詩二章、其二)。

31 參^一天 松 拳^{キヲ}直^ヲ 参天 松は直きを拳ぐ

岳

32 同^一派 颺 連^ヌ茹^ヲ 同派 颺は茹を連ぬ

召

33 涯^ハ懶 瓚 耶 籍 涯は懶し 瓚か籍か

御

34 物^ハ齊^シ果 又 胥 物は齊し 果また胥

潤

35 怒^一涛 方^{フル}怒^ヲ蟹 怒涛 怒りを方ふる蟹

雲

36 行^一旅 倦^レ行^ニ驢 行旅 行くに倦む驢

獄

37 杖^ハ放^ニ精^ニ其^一道^一 杖は精其の道に放つ

竹

38 蓮^ハ生^ニ愛^ニ欲^ノ淤^ニ 蓮は愛欲の淤に生ず

御

39 氷^ニ相^マ離^一熱^一仏 相を氷にする離熱仏

溪

40 雪^ニ罪^ヲ墮^レ塗^ノ漁 罪を雪むる墮塗の漁

良

(13) 『詩經・小雅』「綿綿瓜瓞、民之初生、自土沮漆」。唐・劉長卿「念旧追連茹、謀生任転蓬」(落第贈楊侍御兼拜員外仍充安大夫判官赴范陽)。

(14) 「瓚」は唐高僧明瓚、別号疎懶。支第四57句目「煨鍾疎懶鴟」既出。「籍」は阮籍。

(15) 『莊子』の内篇・齊物論。「胥」は『莊子・外篇・至樂』「胡蝶、胥也化而為虫」。

(16) 『説文』「胥、蟹醢」。

(17) 蘇軾「朱明洞裏得靈草、翩然放杖凌蒼霞」(次韻正補同遊白水山)。

41 性^一海 苦 操^{ルニ}筏^ヲ 性海 筏を操るに苦しむ

召

42 喝^ハ雷^{ライ}覺^{カク}轟^{カウ}車^{シャ}

溪

(22) 長沮、桀溺二人の隠士。『論語・微子』「長沮、桀溺耦而耕、孔子過之、使子路問津焉」。

43 倣^ハ巴^バ童^{ドウ}舞^{マヒ}蝶^{テフ}

御

51 竹^テ揺^ユ涼^{リョウ}颯^{サク}至^シ 竹揺れて涼颯至る

44 浮^フ下^カ若^ニ尊^{ソウ}蛆^{シュ}

重

52 槐^{ケイ}深^シ暑^{ショ}昏^{コン}除^{シュ} 槐深くして暑昏除く

45 杏^{コウ}艷^イ輕^メ衰^{サイ}姐^{シヤ}

雲

53 夏^カ不^フ扇^{セン}泉^{セン}館^{カン} 夏扇がざるは泉館

46 芸^{ゲイ}頻^{リン}繼^キ溺^{ニョク}沮^{ジュ}

澗

54 昼^{チュウ}之^ノ錦^{キン}里^リ閭^カ 昼の錦は里閭

47 義^ギ田^{テン}寧^{ネイ}乞^キ雨^ウ

岳

55 鬢^{ハツ}糸^シ瑕^カ類^{ルイ}少^{ショ} 鬢糸 瑕類少なり

48 文^{モン}火^カ孰^{ジュク}親^{シン}墟^コ

竹

56 手^テ簡^{カン}慮^{リョ}懷^{カエ}攄^ト 手簡 慮懷攄ぶ

49 睡^{スイ}入^ニ做^ゾ魔^マ界^{カイ}

良

57 妾^{ハハ}擁^{ヨウ}繡^{シュウ}駕^カ被^ヒ 妾は駕を繡ものにす被を擁す

50 盟^{メイ}芳^{ホウ}訊^{シン}故^コ廬^ロ

澗

58 我^ガ牽^{ケン}披^ヒ馬^バ裾^コ 我は馬に披する裾を牽く

(18) 蘇軾「此身性海一浮漚、委蛻如遺不自収」(広東東莞県資福寺舍利塔銘)。

(19) 巴渝の童、歌舞に長じる。沈約「巴童暗理瑟、漢女夜縫裙」(秋夜詩)。大永五年八月十日和漢聯句「43 燕舞巴童恥／44 雁帰漢節操」。

(20) 浙江省長興県南の地名、またそこで産出する酒。

(21) 『詩経・小雅』「赫赫宗周、褒姒滅之」。

(22) 泉室、水底の居室。王維「島夷九州外、泉館三山深」(送

(23) 夏の夕暮れか。「結屋葦間湘水村、雨竿晴網送暑昏」(瑞巖「湘漁図」)。

60 免^メ斧^ブ士^シ留^{リウ}櫓^ロ 斧を免じて士櫓を留む

良

59 為^レ衣^イ僧^{ソウ}披^ヒ葉^{エフ} 衣の為に僧葉を披ふ

雲

從弟蕃遊淮南)。

(25) 「思還故里間、欲還道無因」(古詩十九首、其十四)。昼

間に錦を着て故郷に還ること。『史記・項羽本紀』「富貴不歸故郷、如錦衣夜行」。

(26) 玉や糸の傷。劉禹錫「錙銖揚芬馨、尋尺招瑕類」(謁柱山会禪師)。

(27) 書簡に胸中を述べる。『三体詩』「此地登臨慣、攄情一送君」(方干「送友及第歸浙東」)。

(28) 馬に着せる服を持つか。馬に服を着せるのは無知の意。『古文真宝』「人不通古今、馬牛而襟裾」(韓愈「符讀書城南」)。

(29) 樗、無用の材。『莊子・逍遙遊』「吾有大樹、人謂之樗、其大本擁腫而不中繩墨、其小枝卷曲而不中規矩、立之塗而匠者不顧」。

61才散先裁襪^{才散にして先ず襪を裁す} 竹

62語清幾綴裾^{語清くして幾ばくか裾を綴る} 重

63噬臍^{臍を噬みて}榮未達^{榮は未だ達せず} 岳

64携友雅相於^{友を携へて雅は相於る} 潤

65犂野村雍也^{犂は野村の雍也} 御

66蚩炎室漢^{蚩は炎室の漢か} 竹

67觸風着戰色^{風に触れて蒼は色を戦はしむ} 雲

68典藏^{典を典づる}根洪臚^{根は洪臚} 溪

69霧塔半身現^{霧塔 半身現す} 良

70流霞三嘆^{流霞 三嘆の醺} 潤

(30) (樗が木材にされないことから、比喻で) 才能が世に用いられないこと。樗散。杜甫「鄭公樗散鬻成糸、酒後常称老画師」(送鄭十八虔貶台州司戸)。

(31) 美しい詩文。蘇軾「醉中忽思我、清詩綴瓊琚」(答任師中、家漢公)。

(32) 後悔すること。『左伝・莊公六年』「亡鄧国者、必此人也。若不早図、後君噬臍」。

(33) 『論語・雍也』「犂牛之子騂且角、雖欲勿用、山川其諸」。黃庭堅「雍也本犂子、仲由元鄙人」(和師厚接花)。

(34) 漢室が火徳であることを指す。杜牧「四百年炎漢、三代宗周」(洛中送冀處士東遊)。

(35) 外国の賓客の接待を司る鴻臚寺か。

71智橋難進^{智橋 歩を進め難し} 岳

72角里好安儲^{角里 儲を安んずるによし} 雲

73 祖^{スイ}袖^テ樵^ヲ忘^ス潯^ヲ

袖を祖いで樵潯を忘る

重

82 魏^ハ疑^フ伴^{ハリスル}死^ス睢^ル

魏は疑ふ 伴はり死する睢

雲

74 挿^デ鉞^ヲ祖^ヲ 壘^{ハリス}畚^ヲ

鉞を挿して祖畚を壘す

良

83 林^ハ昏^メ禽^ヲ恋^ハ恋^ス

林昏して禽は恋恋

召

75 遊^ハ神^ヲ兜^ヲ在^ル枕^ニ

神を遊ばしむるは兜枕に在り

竹

84 台^ハ幻^ニ蜃^ヲ嘘^ハ嘘^ス

台幻にして蜃は嘘嘘

溪

76 駐^メ骭^ヲ渭^ヲ開^ル鞏^ニ

骭を駐めて渭鞏を開く

召

85 沙^ハ際^ヲ霜^{ニシテ}常^ニ有^ル

沙際 霜常にしも有り

竹

77 蘆^ハ似^{タル}招^{ハクニ}征^ヲ帆^ニ

蘆招くに似たるは征帆

雲

86 且^タ磨^ヲ霰^ハ只^ハ且^{ハカリナリ}

且磨 霰かくばかりなり

雲

78 蓬^ハ如^レ乱^{ハル}巧^カ梳^ニ

蓬乱るるが如きは巧梳

御

87 織^ハ鞋^ヲ蹤^ヲ伎^ハ芸^ニ

鞋を織るは蹤の伎芸

御

79 搗^デ愁^ヲ碓^ヲ竭^ス力^ニ

愁を搗ちて碓力を竭す

湊

88 頂^ク履^ハ諗^ヲ分^ヲ疏^ニ

履を頂くは諗の分疏

竹

80 惻^側耳^ヲ笛^ヲ驚^{カス}予^ニ

耳を側てて笛予を驚かす

岳

89 栢^ハ脱^ス歳^ニ寒^ヲ苦^ニ

栢は歳寒の苦しきを脱す

岳

(36) 『華嚴經』「善知識者、則是趣向一切智橋」。

(37) 角里先生、南山四皓の一人。呂后の招きに応じて太子の地位を守った。

90 香^ハ添^ハ空^ヲ閣^ヲ獻^ス

香は空閣の獻を添ふ

重

(38) 『景德伝燈録』「祐曰、田中多少人。師挿鉞而立」。

(39) 鞏音、すなわち船を漕ぐ櫓声を聞く。『莊子・逍遙遊』「顔淵還車、子路授綏、孔子不顧、待水波定、不聞鞏音而後敢乘」。

(40) 夔州が僻地。杜甫には「秋日夔府詠懷奉寄鄭監李賓客一百韻」と題する詩作がある。

(41) 范睢が死んだふりをして魏から逃れたこと。

81 夔^ハ僻^ニ争^ハ禁^カ杜^ニ

夔僻にして争か禁じの杜

良

92 会^ハ魯^ハ叟^ハ心^ヲ蓬^ニ

魯叟の心を会するは蓬

良

91 鐘^ハ吳^ハ姬^ハ美^ヲ薛^ニ

吳姬の美を鐘るは薛

雲

92 会^ハ魯^ハ叟^ハ心^ヲ蓬^ニ

魯叟の心を会するは蓬

良

93 瓢^ハ可^ニ似^テ非^{ナル}鶴^{ナル}

瓢は似て非なる鶴なるべし

94 芋^ハ其^ニ伏^メ喜^メ狙

芋はそれ伏して喜ぶ狙

95 冷^ニ斎^ニ朝^ニ日^ニ足^ル

冷斎 日に朝して足る

96 広^ニ漢^ニ影^ニ欄^ニ去^ル

広漢 欄に影して去る

97 福^ニ禄^ニ超^ニ周^ニ呂^ニ

福禄 周呂に超えたり

98 粧^ニ梳^ニ妬^ニ趙^ニ好^ニ

粧梳 趙好を妬む

99 徳^ニ高^ニ皆^ニ仰^ニ泰^ニ

徳高くしてみな泰を仰ぐ

召

岳

溪

竹

御

雲

重

100 也^ヤ末^マ尽^ル環^ル滁^ヲ やまことごとく滁を環る

御

(42) 晩唐詩人の薛能が「呉姬十首」を詠んだことを指すか。

(43) 周衛の賢人蘧伯玉が孔子とが昵懇であったこと。

(44) 『列子・黃帝』「与若芋、朝四而暮三、足乎。衆狙皆伏而喜。」

(45) 周を補佐した呂尚。

(46) 班婕妤が趙飛燕に妬まれること。

(47) 『古文真宝』「環滁皆山也」(欧陽修「醉翁亭記」)。

(よう こうほう・武蔵野大学講師)